

同志社教育の念願

松 山 義 則

今春、同志社総長の職をお受けすることとなりました。責任の重さを痛感しております。同志社は新島襄先生のキリスト教主義による学園を設立するという熱い念願によって創設され、数多くの先輩によってこの偉大なる事業は受け継がれてまいりました。われわれもまた、走るべき道程を力をあわせてすみ、つぎの世代に手わたしていかなばならないと存じます。

私学はその特色なり独自性を明白にかかげねばならないことは言うまでもありません。同志社のもつ独自性はもとよりキリスト教主義にもとづく良心教育であり人格教育であります。しかも創立者新島襄先生のもつ個性的な人間的感化が同志社教育の理想を色づけていると思います。新島先生が幕末に生きた一人の青年であり、国を思い憂いた一人でありましたが、人人をひきつける人間的魅力をもつ方であつたと思われまふ。国禁をおかして脱出したことはあまりに有名であります。が、二ヵ月にみたない函館滞在のうちに志をうちあけうる友人をもち、ことに福士宇之吉氏の義侠

心にたすけられたこと、またベルリン丸のセイボリ船長の心をうごかして乗船を許されたことは特記すべき出来事であると思います。渡米してあと、たよるべきあてもなく、不安と焦燥にさいなまれた数ヶ月のちにハーディ氏の心にふれることができたのも新島先生の人柄のゆえであつたと思います。

先日、私は青森県同志社校友会支部と同窓会支部の総会に出席することができましたが、その会合で、元治元年（一八六四年）旧四月十八日、宮城県南部宮古から快風丸で函館に向うとき、新島先生が青森県下風呂に停泊され、一夜を当地の温泉で休養されたと聞きました。そして校友、同窓の方方から是非それを記念する碑を設立してほしいという要請を受けましたが、県民の人人に、新島裏と同志社をよく知ってもらうためにというご希望でありました。全国全世界の各地にある校友同窓の方方はその青春の月日を送った母校をなつかしく思いおこされるとともに新島先生を一人でも多くの人に知ってもらいたいという願いをもっていられると思います。われわれ同志社につらなる人人が矜持と自信をもち、同志社人は社会においてなくてはならない働き人であります。

現在、教育についての論議が広がったかわされ、臨教審答申についても賛否両論まことにさかんであります。いうまでもなくわが国の将来にとって教育がなににまして優先して大切であり、人材の養成にすべてはかかっています。明治初頭からわが国は近代化に向けて国家主義思想と富国強兵に位置づけられた教育をおすすめてきました。そのなかにあつて、自由教育を願い、キリスト教主義を徳育の基本とした同志社は苦難の道を歩みました。戦後、極端な国家主義が排除され、自由、平等の精神に裏づけられた新しい教育がおすすめられてはきましたが、戦後四十年に見られる結末は過当競争、知的偏重、偏差値重視、そして東大を頂点とする学校差序列社会が堅牢なまで

に確立されてきました。受験校や教育産業の過熱は人間性を無視する苛酷な状況を生み青少年はそこにとりかこまれてきました。

一一〇年の昔、新島先生が念願された同志社の教育理想は、「天帝を信じ、真理を愛し、人情を敦くする基督教主義の道徳」をもってすることにありました。キリスト教主義が青年の精神と品行を陶冶する活力あることを信じて、この主義をもって人物の養成を願ったのであります。人間社会では競争にうちかつだけの力をたくわえることは大切でありましょう。しかし、競争とともに協力が、そしてなによりも他者尊重の温かくまた勇気ある心なしにははてしない空虚さと社会の崩壊を結果するだけであります。一人一人神からあたえられた独自一己の気象を発揮する青少年たち、個性あふれる書生を圧束せず天下の人物を養成することが同志社の願いであります。知育・徳育・体育の調和は同志社が長く言いつたえ願いつづけてきた信念でありました。人はかわり、世はうつり、思想の波があい打つなかにあっても同志社教育は、キリスト教主義を徳育の基本とし、学生生徒一人一人の存在の尊厳に畏敬し、昔も今も断固として変らない不易の立学の精神に生きつつあると確信いたします。社員たるものは生徒を丁重に取扱うべきことという新島先生の言葉をいま思うかべます。まことに浅学劣才の身でありますがよろしくご協力とご鞭撻とをたまわりとう存じます。

(同志社総長・理事長)